



## Red Hat Insights 2022

# Red Hat Insights Advisor Service を使用した RHEL 設定の問題評価

RHEL システムに影響する設定の問題評価と監視



# Red Hat Insights 2022 Red Hat Insights Advisor Service を使用した RHEL 設定の問題評価

---

RHEL システムに影響する設定の問題評価と監視

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

## 法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Assessing\_RHEL\_Configuration\_Issues\_Using\_the\_Red\_Hat\_Insights\_Advisor\_Service.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Insights Advisor サービスを使用して、RHEL システムの可用性、安定性、パフォーマンス、およびセキュリティに影響する設定の問題を評価し、監視します。

## 目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化 .....	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック .....	4
第1章 INSIGHTS FOR RHEL ADVISOR サービスの評価および監視の概要 .....	5
第2章 アドバイザーサービスの推奨事項の概要 .....	6
2.1. システムおよび推奨事項のペアリング .....	7
第3章 ADVISOR サービスの推奨事項の調整 .....	8
3.1. すべてのアドバイザー推奨事項の表示 .....	8
3.2. 推奨事項のフィルタリング .....	8
3.3. 推奨事項の並べ替え .....	10
3.4. 推奨事項の無効化 .....	10
3.5. 以前に無効にした推奨事項の表示および有効化 .....	11
第4章 ADVISOR サービスシステム一覧の調整 .....	12
4.1. 名前によるフィルター .....	12
4.2. ソートオプション .....	12
第5章 ADVISOR サービスのタグ、SAP ワークロード、およびグループのフィルタリング .....	13
第6章 インベントリからのシステムの削除 .....	14
第7章 システムのフィルタリングとグループ .....	15
7.1. SAP ワークロード .....	15
7.2. SATELLITE ホストグループ .....	15
7.3. システムタグ付けのカスタム .....	15
7.3.1. フィルター構造 .....	16
7.3.2. カスタムグループおよび tags.yaml ファイルの作成 .....	16
7.3.3. タグの追加または変更を行うための tags.yaml の編集 .....	17
7.4. システムへのフィルターの追加 .....	17
7.5. タグの追加または変更を行うための TAGS.YAML の編集 .....	18
第8章 参考資料 .....	20



## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[弊社の CTO、Chris Wright のメッセージ](#) を参照してください。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック

弊社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加します。

### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルでは、このドキュメントは **Multi-page HTML** 表示形式です。

### 手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **フィードバック** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



#### 注記

フィードバック機能は、**マルチページ HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. ハイライトされたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。



## 第1章 INSIGHTS FOR RHEL ADVISOR サービスの評価および監視の概要

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) インフラストラクチャーの正常性を評価して監視するには、advisor サービスを使用します。システムの個人ユーザーまたはグループの場合でも、インフラストラクチャー全体の場合でも、お使いのシステムが、可用性、安定性、パフォーマンス、セキュリティーに影響を与える可能性のある設定の問題にさらされないように注意してください。

Insights for RHEL クライアントのインストールおよび登録後、クライアントは毎日クライアントを実行して **推奨** のデータベースに対してシステムをチェックします。これは、RHEL システムがリスクにさらされたままにできる一連の条件です。その後、データが [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページにアップロードされ、そのページで以下のアクションを実行できます。

- RHEL インフラストラクチャー全体の推奨事項をすべて参照してください。
- 強固なフィルタリング機能を使用して、SAP ワークロード、Satellite ホストコレクション、カスタムタグなど、お客様にとって最も重要な推奨、システム、グループ、またはワークロードに対して結果を絞り込むことができます。
- 個別の推奨事項、それらが示すリスクの詳細、および個別のシステムに適した解決方法を確認してください。
- 結果を他の内容と共有します。詳細は [Generating Advisor Service Reports](#) を参照してください。
- Insights for RHEL アプリケーション直接問題を修正するために修復 Playbook を作成し、管理します。詳細は [Remediating Configuration Issues Using Red Hat Insights and Ansible Playbooks](#) を参照してください。

## 第2章 アドバイザーサービスの推奨事項の概要

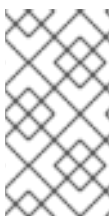
advisor サービスは、RHEL システムの**可用性**、**安定性**、**パフォーマンス**、または**セキュリティー**に悪影響を与える可能性がある、既知の設定問題に関する情報を処理します。この情報バンドルは、システムの問題を修正または修正する方法に関する推奨事項を作成するために使用されます。推奨事項はアドバイザーサービスデータベースに公開され、アドバイザーの推奨事項ページからアクセスできます。ページに移動すると、さまざまな並べ替えとフィルターのを使用して、次のような情報にアクセスできます。

- **Modified.**アドバイザーサービスデータベースに対してレコメンデーションが最後に変更 (または公開) された日付または時間枠
- **Category.**問題の種類または問題の影響—問題が RHEL システムの **可用性**、**安定性**、**パフォーマンス**、または **セキュリティー** に悪影響を与える可能性があるかどうか
- **Impact.**推奨事項に関連するインシデントが発生した場合のシステム運用への **影響** (低、中、高、または **重大**)
- **Incidents.**この問題はインシデントとして分類されており、すでにシステムに影響を及ぼしている問題です。
- **Likelihood.**問題がインフラストラクチャーに悪影響を与える **可能性** (低、中、高、または **重大**)
- **Name.**RHEL システムへの影響など、問題の簡単な説明
- **Reboot Required.**システムの再起動ステータス (**必須** または **不要**) は、修復の一環としてシステムを再起動する必要があるかどうかを示します
- **Remediation.**修正または修正には、手動の (自動化されていない) 手順が必要であるか、自動化された Playbook があります
- **Risk of change.**推奨される修復の実行によるシステム操作の変更 (**非常に低い**、**低い**、**中程度**、または **重要**) のリスク
- **Status.**推奨ステータス (**有効**、**無効**、または **Red Hat 無効**) について説明し、推奨が表示されているかどうかを示します。**無効** は、組織内の誰かが推奨事項の表示をオフにしたことを示します。**Red Hat 無効** になっている場合は、問題がシステムに差し迫ったリスクをもたらさないため、Red Hat が推奨の表示をオフにしたことを示します)
- **システム** または **影響を受けるシステム**。推奨が検出されたシステムの数 (1以上 または **なし**)
- **Total risk.**問題がインフラストラクチャーに悪影響を与える **可能性** と、それが発生した場合のシステム運用への **影響** によって決定される、総リスクレベル (**低**、**中**、**重要**、または **重大**) について説明します。



### 注記

Insights for Red Hat Enterprise Linux では、以前は推奨事項はルールと呼ばれていました。



### 注記

デフォルトのアドバイザーサービス推奨ビューには、情報のより小さなサブセットが表示され、1つ以上の**システム**のシステム情報を表示するようにフィルタリングされ、ステータスは**有効**になっています。フィルターに関する情報については、このドキュメントの後のセクションで説明します。

## 2.1. システムおよび推奨事項のペアリング

システムに推奨事項が存在すると、advisor サービスはシステムへの影響を特定し、さらに特定の軽減策または解決手順を提供します。この情報は、推奨事項を表示し、影響を受けるシステムを選択すると表示されます。

影響を受けるシステムを選択したら、システムで利用可能なすべての推奨事項と、以下の情報を表示します。

- **Detected issues.** そのシステムの障害に関する特定の情報
- **Steps to resolve.** そのシステム上の問題を解決する手順
- **Related knowledgebase articles.** 一般的な問題に関する KB 記事またはソリューション
- **Additional info.** 問題と、問題の解決策に関するその他のサポート記事
- **Ansible.** Playbook の修復の可用性

## 第3章 ADVISOR サービスの推奨事項の調整

特に Insights for Red Hat Enterprise Linux が大規模にデプロイされたとき、Advisor サービスを使用すると、多くの情報が手に入ります。ただし、最も重要なシステムおよび問題にフォーカスできるように、advisor の結果を改良する方法はいくつかあります。本セクションでは、特定の推奨事項をフィルタリング、ソート、および除外するための複数のオプションを説明します。

The screenshot displays the 'Advisor recommendations' interface. At the top, there is a search bar and filter options for 'Workloads' and 'All workloads'. Below this, a table lists recommendations. The first entry is 'Misconfigured applications running on EC2 instances where IMDSv1 is enabled will have access to the internal Metadata service by exploiting application vulnerabilities'. This recommendation is categorized as 'Important' (indicated by a red star icon) and 'Very Low' risk (indicated by a blue 'Very Low' tag). It affects 6 systems and is marked as 'Enabled' (indicated by a green checkmark icon).

### 3.1. すべてのアドバイザー推奨事項の表示


Insights for Red Hat Enterprise Linux アドバイザーサービスの推奨ビューに最初に入ると、デフォルトのビューと、適用されている **Systems Impacted** (1つ以上のシステムに設定) および **Status** (有効に設定) フィルターの結果が表示されます。システムに影響を与えないものや advisor データベース内のものを含む、**すべての** 推奨事項の包括的なビューを取得するには、次の手順を使用します。

#### 前提条件

Red Hat Hybrid Cloud コンソール にログインしている必要がある。

#### 手順

1. [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動します。

2.  **Systems Impacted** フィルターと **Status** フィルターの横にある閉じるアイコンをクリックします。これで、システムの潜在的な推奨事項をすべて参照できます。
3. 必要に応じて、**Reset filters** をクリックして、**1 or more of Systems impacted** と **Enabled** に設定された **Status** を表示するデフォルトの推奨ビューに戻ります。

### 3.2. 推奨事項のフィルタリング

以下のフィルターからを選択して、推奨事項の一覧を絞り込みます。

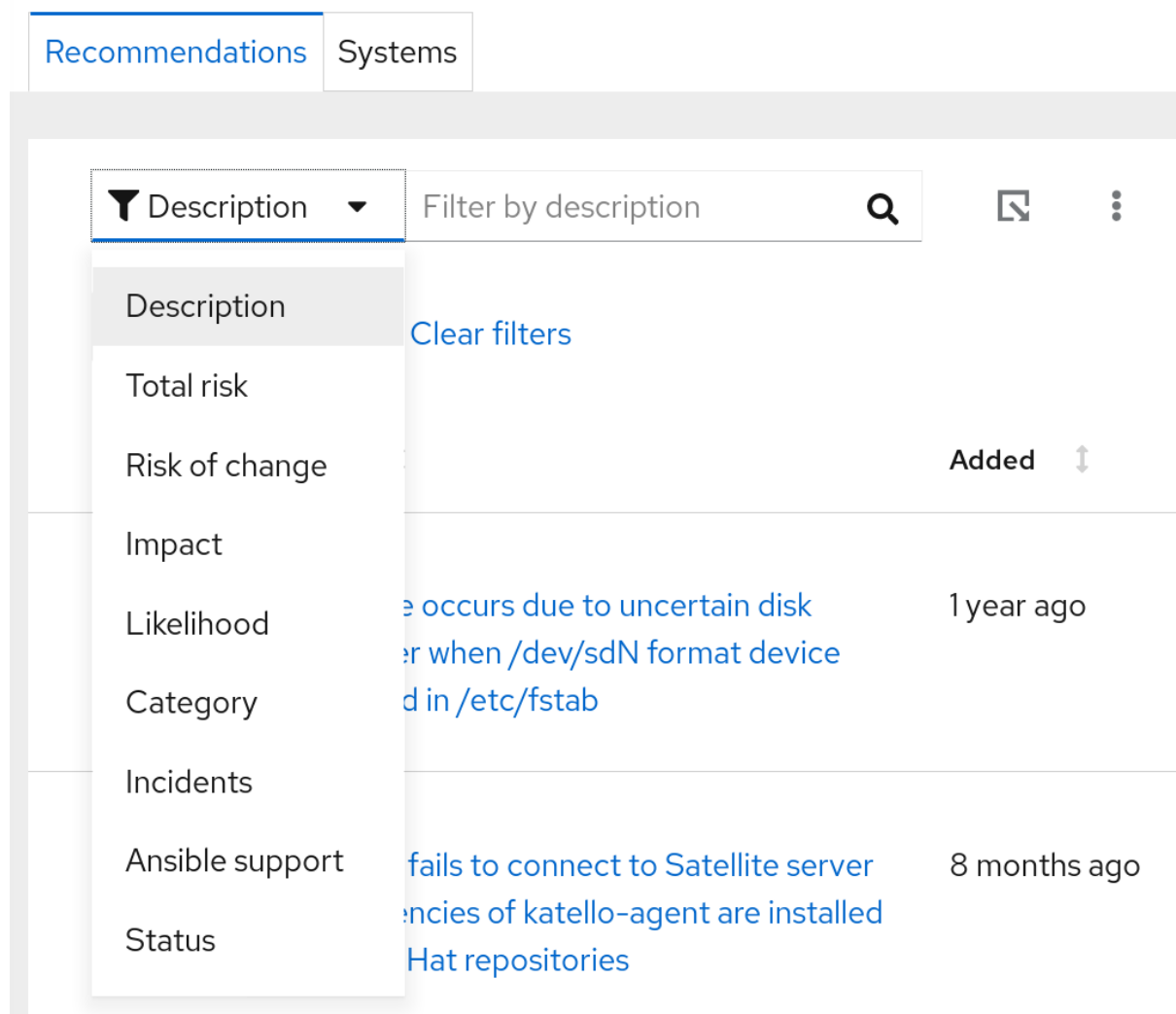
- **Namesubfilter** フィールドで、推奨の説明またはキーワードを入力試行を開始し、表示されるオプションから選択します。
- **Total risk**.サブフィルターフィールドで、重大、重要、中程度、低のいずれかを選択します。
- **Risk of change**.サブフィルターフィールドで、High、Moderate、low、または Very low から選択します。
- **Impact**.サブフィルターフィールドで、重大、重要、中程度、低のいずれかを選択します。

- **Likelihood.**サブフィルターフィールドで、重大、重要、中程度、低のいずれかを選択します。
- **Category.**サブフィルターフィールドで、Availability、Performance、Stability、または Security から選択します。
- **Incidents.**サブフィルターフィールドで、修飾子が発生したかどうかとともに寿司法事項を表示します。
- **Ansible support.**サブフィルターフィールドで、Ansible Playbook サポートの有無に関わらず推奨事項を表示する場合は、これを選択します。
- **Status.**サブフィルターフィールドで、すべて、有効、または無効を選択します。

フィルターを設定するには、以下の手順を行います。

### 手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. フィルターアイコンをクリックし、ドロップダウンリストからフィルターカテゴリーを選択します。



3. サブフィルターメニューのドロップダウン矢印をクリックして、チェックボックス (またはボックス) を選択し、サブフィルターをアクティブにします。説明の場合は、推奨項目の名前または説明を入力します。

The screenshot shows the 'Recommendations' tab in the Red Hat Insights Advisor interface. At the top, there are two tabs: 'Recommendations' (selected) and 'Systems'. Below the tabs, there is a filter section with a 'Total risk' dropdown set to 'Filter by total risk'. A 'Status' dropdown is set to 'Enabled'. A 'Description' column is visible, and a dropdown menu is open showing risk levels: Critical, Important, Moderate, and Low. A table row is partially visible with a description: 'OS boot failure occurs due to uncertain disk discovery order when /dev/sdN format device names are used in /etc/fstab' and an 'Added' column showing '1 year ago'.

### 3.3. 推奨事項の並び替え

推奨項目リストの各コラムの上のソート矢印を使用して、結果を並び替えます。以下のパラメーターを使用すると、一度にコラムでソートできます。

- **NameA** から Z または Z から A へのアルファベット化。
- **Added.** 推奨事項が最新のものまたは最も古いものからアーカイブに追加された後の日数順。
- **Total risk.** 重大度の高い順で表示。
- **Systems** 影響を受けるシステムの数で表示。
- **Ansible.** Ansible Playbook のサポートの有無に関わらず、推奨事項を確認してください。

### 3.4. 推奨事項の無効化

システムに影響する特定の推奨事項を無効にして、その結果に表示されないようにすることができます。推奨事項を無効にするには、以下の手順を行います。

#### 手順

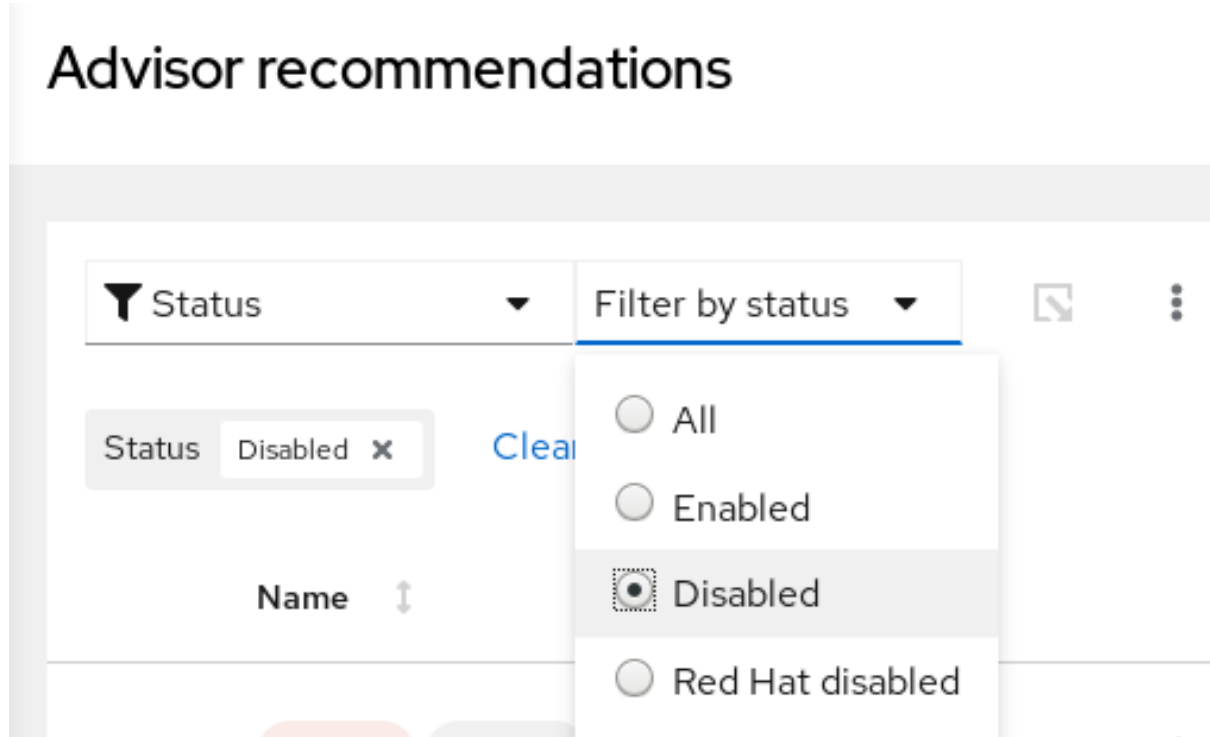
1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. 無効にする推奨事項を特定します。
3. 行の右隅にある **more-actions** アイコン  をクリックし、**Disable recommendation** をクリックします。

### 3.5. 以前に無効にした推奨事項の表示および有効化

推奨事項が無効になっていると、その推奨事項は Advisor 結果に表示されなくなります。このアクションを元に戻すには、次の手順を実行します。

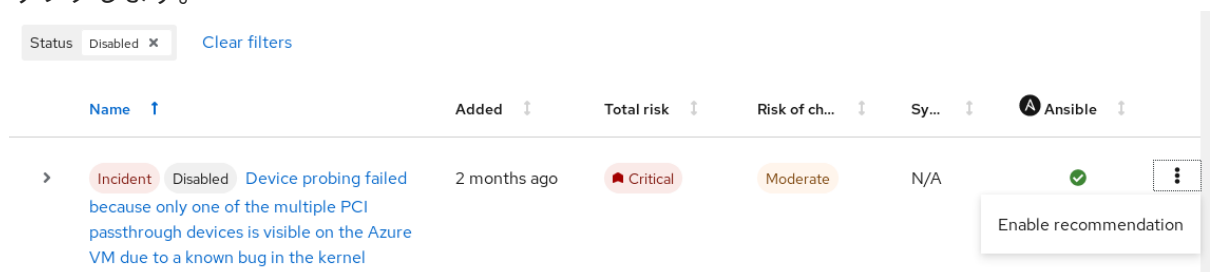
#### 手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. フィルタードロップダウンメニューをクリックして、**Status** を選択します。
3. サブフィルタードロップダウンリストで、**Disabled** を選択します。



4. 有効にする推奨事項を特定します。

5. 行の右側にある **more-actions** アイコン  をクリックして、**Enable recommendation** をクリックします。



## 第4章 ADVISOR サービスシステム一覧の調整

システムビューには、Insights クライアントがインストールされ、Advisor レポートデータがあるシステムがすべて表示されます。システム一覧は、以下の方法で改良できます。

The screenshot shows the 'Advisor systems' view in the Red Hat Insights interface. At the top, there is a search bar for tags and a filter for workloads. Below that, there is a table of systems. The table has the following columns: Name, Recommendations, Critical, Important, Moderate, Low, and Last seen. The table contains one row for the system 'lxc-rhel6' with the following values: 4 Recommendations, 0 Critical, 0 Important, 4 Moderate, 0 Low, and Last seen 6 minutes ago.

Name	Recommendations	Critical	Important	Moderate	Low	Last seen
lxc-rhel6	4	0	0	4	0	6 minutes ago

### 4.1. 名前によるフィルター

ホストまたはシステム名を検索します。

### 4.2. ソートオプション

以下のコラムにあるソート矢印を使用して、システムテーブルの順番を並び替えます。

- **Name**A から Z または Z から A へのアルファベット化。
- **Number of recommendations**.各システムに影響する推奨事項の数で並び替えます。
- **Last seen**.アーカイブがシステムから Advisor サービスに最後にアップロードされてからの経過時間 (分、時間または日数) 順。



## 第5章 ADVISOR サービスのタグ、SAP ワークロード、およびグループのフィルタリング

フィルターにより、カスタムグループタグ、SAP ワークロード、および Satellite グループが Advisory サービス UI で、フォーカスするシステムをすばやく特定して表示できます。

Advisory サービスにおける、Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションのページの左上隅にある **Filter results** ボックスを使用した、セキュリティータグ、ワークロード、およびグループフィルター。

フィルタードロップダウンメニューには、アカウントに関連付けられたすべてのタグが表示され、フィルター処理に使用するパラメーターをクリックできます。advisor サービスを使用してタグで絞り込むには、以下の手順を実行します。

### 手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Systems](#) ページに移動し、ログインします。**Filter results** ボックスは、Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションのほとんどのビューにあり、この手順は **Filter results** にアクセスする場所でも機能します。
2. **Filter results** ボックスの矢印をクリックし、スクロールして、このアカウントにあるシステムで利用可能なタグを確認します。
3. SAP ワークロード、Satellite ホストグループ、またはカスタムグループでフィルターする1つ以上のタグを選択します。適用されたタグは、**Filter results** ボックスの横に表示されます。
4. advisor サービス全体でフィルターされた結果を表示します。
5. タグを削除するには、**Clear フィルター** をクリックします。

## 第6章 インベントリーからのシステムの削除

システムを [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) インベントリーから削除して、システムが Insights for Red Hat Enterprise Linux Inventory インベントリーまたは advisor サービスシステム一覧に表示されないようにすることができます。Insights クライアントはシステムで登録解除され、Insights for Red Hat Enterprise Linux にデータが報告されなくなります。システムを削除するには、ユースケースに最も関連する以下の手順を実施します。

### 手順 1: Insights クライアントを使用した削除

1. システムのコマンドラインに以下のコマンドを入力します。

```
[root@server ~]# insights-client --unregister
```

### 手順 2: Red Hat Satellite 6 UI から削除

1. Satellite Web UI にログインします。
2. Insights > インベントリーに移動します。
3. 登録を解除するシステムプロファイルを選択します。
4. **Actions > Unregister** をクリックします。

### 手順 3: cloud.redhat.com API を使用した削除

このオプションは、実際のシステムが破棄または再インストールされた場合にのみ使用します。クライアントの登録を解除せずに **DELETE** を使用すると、次回クライアントがデータをアップロードする際に、ホストが再度表示されます。

1. インベントリーからシステムプロファイルの一覧を取得します。

```
# curl -k --user PORTALUSERNAME https://cloud.redhat.com/api/inventory/v1/hosts |  
json_pp > hosts.json
```

2. **json\_pp** コマンドがシステムに存在しない場合は、**perl-JSON-PP** パッケージをインストールします。

```
# yum install perl-JSON-PP
```

3. **hosts.json** ファイルからシステムの ID を取得して、システムの詳細を確認します (例: "id": "f59716a6-5d64-4901-b65f-788b1aee25cc")。

```
# curl -k --user PORTALUSERNAME  
https://cloud.redhat.com/api/inventory/v1/hosts/f59716a6-5d64-4901-b65f-788b1aee25cc
```

4. 以下のコマンドを実行して、システムプロファイルを削除します。

```
# curl -k --user PORTALUSERNAME -X "DELETE"  
https://cloud.redhat.com/api/inventory/v1/hosts/f59716a6-5d64-4901-b65f-788b1aee25cc
```

## 第7章 システムのフィルタリングとグループ

Insights for Red Hat Enterprise Linux を使用すると、管理者はインベントリー内のシステムや個々のサービスでシステムをフィルターできます。グループは、Insights for RHEL へのシステムデータの偽装方法によって識別されます。Insights for RHEL では、実行中の SAP ワークロード、Satellite ホストグループ、および root アクセスを持つシステム管理者が定義したカスタムフィルターにより、システムのグループをフィルタリングして、システム上の Insights クライアントを設定できます。



### 注記

2020 年秋の時点では、インベントリー、advisor、vulnerability、patch、drift、および policies は、グループでフィルタリングできます。その他のサービスは後から続きます。

グローバルの **Filter Results** ボックスを使用して、SAP ワークロード、Satellite ホストグループ、または Insights クライアント設定ファイルに追加されたカスタムフィルター、および Insights クライアント設定ファイルに追加されたカスタムフィルター別にフィルタリングします。

### 前提条件

Insights for Red Hat Enterprise Linux のフィルター機能を使用するには、以下の前提条件および条件を満たしている必要がある。

- Insights クライアントが各システムにインストールされている。
- カスタムタグを作成するには、`/etc/insights-client/tags.yaml` ファイルに追加したりこのファイルに変更を加える root 権限相当のパーミッションが必要です。

## 7.1. SAP ワークロード

2025 年に Linux は SAP ERP ワークロードの必須オペレーティングシステムになるため、Red Hat Enterprise Linux および Insights for Red Hat Enterprise Linux を連携して、Insights for RHEL が SAP 管理者に選ばれる管理ツールとなるように取り組んでいます。

この継続的な取り組みの一環として、Insights for RHEL は SAP ワークロードおよび SAP ID (SID) を実行しているシステムを自動的にタグ付けしますが、管理者がカスタマイズする必要がありません。ユーザーは、グローバル **Filter results** ドロップダウンメニューを使用して、Insights for RHEL アプリケーション全体でワークロードを簡単にフィルターできます。

## 7.2. SATELLITE ホストグループ

Satellite ホストグループは Satellite で設定され、Insights により自動的に認識されます。

## 7.3. システムタグ付けのカスタム

システムにカスタムグルーピングおよびタグ付けを適用することで、個別のシステムにコンテキストマーカーを追加したり、Insights for RHEL アプリケーションでこれらのタグでフィルタリングしたり、関連システムにより簡単にフォーカスしたりできます。この機能は、大規模な Insights for RHEL をデプロイする場合に特に有用です。これには、管理下で数百または数千ものシステムが含まれます。



### 注記

カスタムタグを作成するには、`/etc/insights-client/tags.yaml` ファイルに追加したりこのファイルに変更を加える root 権限相当のパーミッションが必要です。

### 7.3.1. フィルター構造

フィルターは、`namespace/key=value` のペアの構造を使用します。

- **Namespace**名前空間は、インジェストポイントである `insights-client` の名前であり、変更することはできません。この `tags.yaml` ファイルは名前空間から抽象化され、アップロード前にクライアントによってインジェクトされます。
- **Key**キーは、ユーザーが選択したキーまたはシステムの定義済みのキーにすることができます。大文字、文字、数字、記号、および空白文字の組み合わせを使用できます。
- **Value**独自の記述文字列値を定義します。大文字、文字、数字、記号、および空白文字の組み合わせを使用できます。

### 7.3.2. カスタムグループおよび `tags.yaml` ファイルの作成

`insights-client --group=<name-you-choose>` を使用してタグ作成し、`/etc/insights-client/tags.yaml` に追加します。これは、以下を実行します。

- `etc/insights-client/tags.yaml` ファイルを作成します。
- `group=` キーおよび `<name-you-choose>` の値を `tags.yaml` に追加します。
- システムから Insights for RHEL アプリケーションに新規アーカイブをアップロード。最新の結果とともに新規タグがすぐに表示される

初期 **グループ** タグを作成したら、必要に応じて `/etc/insights-client/tags.yaml` ファイルを編集し、タグを追加します。

以下の手順では、初期グループおよび `/etc/insights-client/tags.yaml` ファイルを作成し、Insights for RHEL インベントリにタグが存在することを検証する方法を説明します。

#### 手順

1. `--group=` の後にカスタムグループ名を追加して、`root` で以下のコマンドを実行します。

```
[root@server ~]# insights-client --group=<name-you-choose>
```

2. 必要に応じて [Red Hat Insights > Inventory](#) に移動し、ログインします。
3. **Filter results** ドロップダウンメニューをクリックします。
4. 一覧をスクロールするか、検索機能を使用してタグを見つけます。
5. タグをクリックしてフィルター処理を行います。
6. システムが、アドバイザーシステム一覧の結果に含まれていることを確認します。
7. 必要に応じて [Red Hat Insights > Inventory](#) に移動し、ログインします。
8. **Name** フィルターをアクティブにし、システムが表示されるまでシステム名を入力してから選択します。
9. システム名の横にタグシンボルがグレイになり、適用されるタグの正確な数を表す数字が表示されることを確認します。

### 7.3.3. タグの追加または変更を行うための `tags.yaml` の編集

グループフィルターを作成したら、必要に応じて `/etc/insights-client/tags.yaml` の内容を編集して、タグの追加または変更を行います。システムに、複数のフィルター、フィルターを追加できます。

#### 手順

1. コマンドラインで、編集するタグ設定ファイルを開きます。  
**[root@server ~]# vi /etc/insights-client/tags.yaml**
2. 必要に応じてコンテンツを編集するか、または追加値を追加します。以下の例は、システムに複数のタグを追加する際の `tags.yaml` の管理方法を示しています。

```
# tags
---
group: eastern-sap
location: Boston
description:
- RHEL8
- SAP
key 4: value
```



#### 注記

必要な数の `key=value` ペアを追加します。大文字、文字、数字、記号、および空白文字の組み合わせを使用します。

3. 変更を保存してエディターを閉じます。
4. Insights for RHEL へのアップロードを生成します。  
**[root@server ~]# insights-client**
5. 必要に応じて [Red Hat Insights > Inventory](#) に移動し、ログインします。
6. **Filter Results** ボックスで、下矢印をクリックし、フィルターの1つを選択するか、フィルターの名前を入力して選択します。
7. 結果でシステムを検索します。
8. フィルターアイコンが禁止され、システムに適用されるフィルターの数を示す数字が表示されることを確認します。

## 7.4. システムへのフィルターの追加

タグを `tags.yaml` に追加する最も簡単な方法は、`insights-client --group=<name-you-choose>` を使用して以下の操作を実行します。

- `etc/insights-client/tags.yaml` ファイルを作成します。
- **グループ** キーおよび `<name-you-choose>` の値を `tags.yaml` に追加します。
- システムから Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションに新規アーカイブをアップロードすることで、最新の結果とともに新しいタグがすぐに表示されます。

初期 **グループ** タグの作成後に、必要に応じて `tags.yaml` を編集してタグを追加できます。

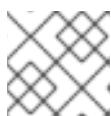
以下の手順では、初期グループと **tags.yaml** ファイルを作成し、Insights for RHEL インベントリーのタグを検証する方法を説明します。

## 手順

1. 以下のコマンドを実行し、**--group=** の後にグループ名を追加します。

```
[root@server ~]# insights-client --group=<name-you-choose>
```

2. 必要に応じて、インベントリーに移動し、ログインします。
3. **フィルター** ドロップダウンメニューをクリックして、**タグ** を選択します。
4. 検索ボックスで、下矢印をクリックしていずれかのタグを選択するか、タグの名前を入力します。



### 注記

タグキーまたは値で検索できます。

5. 結果の中からお使いのシステムを見つけ、タグのアイコンが暗くなっており、システムに適用されたタグの数が表示されていることを確認します。
6. タグをクリックすると、そのシステムに適用される各タグが表示されます。

## 7.5. タグの追加または変更を行うための TAGS.YAML の編集

グループタグの作成後に、必要に応じて **tags.yaml** の内容を編集してタグを追加または変更できます。システムに、複数のフィルター処理可能なタグを追加できます。



### 注記

Insights for Red Hat Enterprise Linux は、個人を特定できる情報 (PII) を含む可能性のあるデータを含め、最小限のデータを収集します。データリダクションオプションを適用して、PII (またはその他の設定データ) の収集を防止します。一部の設定ファイルのデータリダクションオプションの詳細については、[Insights client data redaction](#) および [Redaction and YAML file use](#) を参照してください。

Red Hat がデータ収集を処理する方法については、[Red Hat Insights Data & Application Security](#) を参照してください。

## 手順

1. コマンドラインで、編集するタグ設定ファイルを開きます。

```
[root@server ~]# vi /etc/insights-client/tags.yaml
```

2. 必要に応じてコンテンツを編集するか、または追加の key=value ペアを追加します。以下の例は、システムに複数のタグを追加する際の **tags.yaml** の管理方法を示しています。

```
# tags
---
group: _group-name-value_
```

```
location: _location-name-value_
description:
- RHEL8
- SAP
key 4: value
```



### 注記

必要な数の key=value ペアを追加します。大文字、文字、数字、記号、および空白文字の組み合わせを使用します。

3. 変更を保存してエディターを閉じます。
4. Insights for RHEL へのアップロードを生成します。

```
[root@server ~]# insights-client
```

5. 必要に応じて、インベントリに移動し、ログインします。
6. **フィルタード**ドロップダウンメニューをクリックして、**タグ**を選択します。
7. 検索ボックスで、下矢印をクリックしていずれかのタグを選択するか、タグの名前を入力して選択します。



### 注記

タグキーまたは値で検索できます。

8. 結果でシステムを検索します。
9. タグアイコンが禁止され、システムに適用されるタグの数を示す数字が表示されることを確認します。
10. タグをクリックすると、そのシステムに適用される各タグが表示されます。

## 第8章 参考資料

Insights for Red Hat Enterprise Linux についての詳細情報は、以下のリソースも該当する可能性があります。

### ドキュメント

- [Red Hat Insights および Ansible Playbook を使用した設定問題の修復](#)
- [Advisor サービスレポートの生成](#)
- [Insights for Red Hat Enterprise Linux ドキュメント](#)
- [Insights for Red Hat Enterprise Linux 製品サポートページ](#)